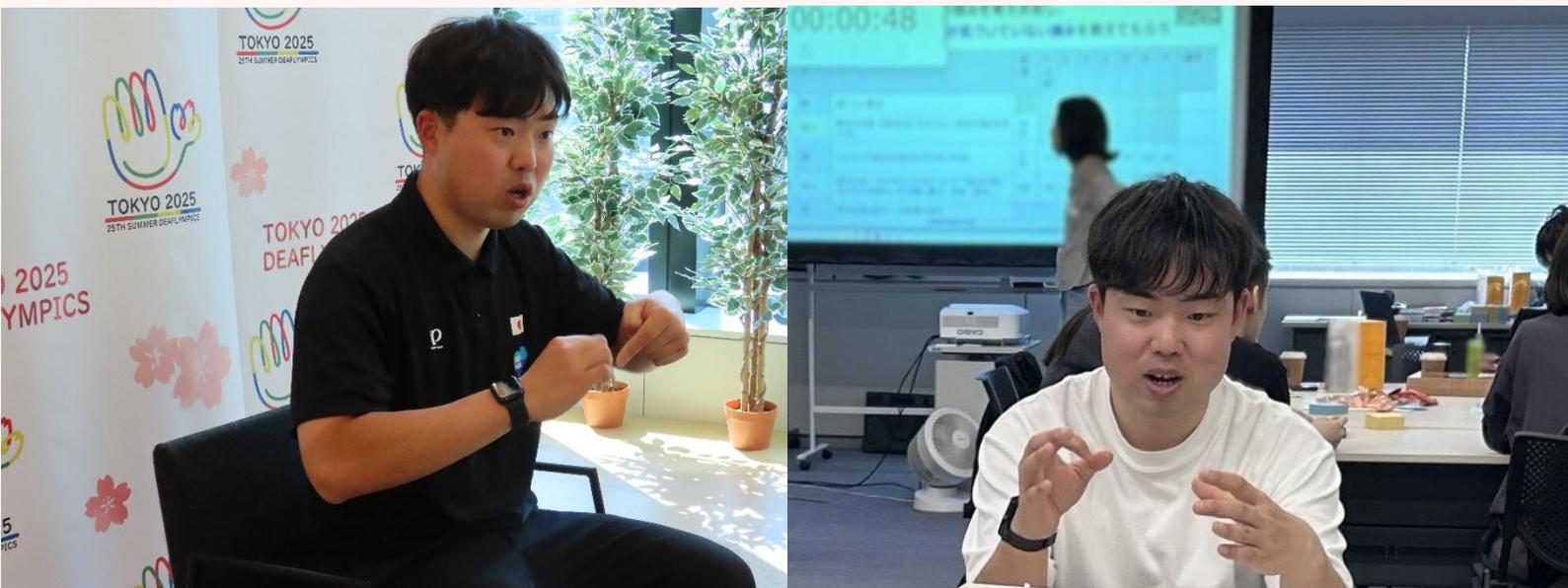


Athlete Interview

file 4

デフ自転車 田中 航太

2025年11月開催の「東京2025デフリンピック」まで遂に半年をきる。
自身初のデフリンピック出場の内定を勝ち取った田中選手。昨年9月にはポーランドで行われた世界デフ自転車選手権に出場。
自国開催となるデフリンピックにかける想いをきいた。



自転車競技について

高校までは野球をしていましたが、大学進学タイミングで新しいことにチャレンジしたいと思い、トライアスロンを始めました。同じ大学の先輩に水泳でデフリンピックに出場しメダルも獲得している選手がいて、その選手と話す中でデフリンピックを知り、出てみたいなという興味を持ちました。

デフリンピックにはトライアスロンの競技がないので、水泳、自転車、マラソンの中からどれかを選ぶことにしました。大学4年の時に新型コロナが流行したことで水泳の練習場所が閉鎖されたこともあり、自転車でいろいろなところへ出かけていました。その時に自転車に魅力を感じ、大学卒業後本格的に自転車にはまっていきました。



昨年は9月にポーランドで行われた世界デフ自転車選手権に3種目で出場しました。スプリント種目では8位入賞となりました。

ポーランドで一番印象に残っていることは、現地の人たちとの関わりです。とても優しい人が多く、「日本はどんなところ?」「何がおいしいの?」など、日本でデフリンピックが行われることもあり、とても興味を持って話しかけてくれました。箸の使い方を教えてほしいと言われ、教えてあげたりもしました。

食事の面では、大会が行われた地域は、ポーランドの中で内陸の地域だったので、生魚がどこを探しても見つかりませんでした。私は刺身が大好きなので、生魚が恋しくなっていました。帰国後はまずお寿司を食べましたね。

デフリンピックで海外の選手が来た時には、お寿司を食べてもらいたいと思っています。2週間の大会期間中にいろんな寿司ネタにチャレンジしてもらいたいです。

聴力について

きこえないことがわかったのは1歳か2歳の時でした。親に呼ばれても聞こえていない様子だったので、病院に行きわかりました。

5歳からろう学校に通い、小学校ではキュード・スピーチ（キュード・スピーチは、国語の音韻を五つの母音口形と音素レベルで表象する記号（キュー）との組合せによって表現する方法）を使っていました。中学校からは学校の方針で手話を使う

ようになり、先生や友達とも手話を使ってコミュニケーションをとっていました。

家族の中では私以外は聴者なので口話と簡単な手話を使ってコミュニケーションをとっています。病院に行ったときなど母が簡単に通訳をしてくれるといった場面もありました。

両親からはいつも好きなことをやりなさいと言われており、きこえないからと言って何かやりたいことを制限されることはありませんでした。ただし、ルールやマナーや礼儀を守ることは厳しく教わりました。

きこえない日常

日常生活の中で不便に感じたことは、ETCの無人窓口についてです。自転車競技のレースで遠征に行く際に群馬や長野まで車を運転していくのですが、以前、高速道路のETC出口を出ようとしたら、遮断機が下りたままで出られなくなってしまったことがありました。機械には問合せ用の赤いボタンだけしかなく、聴覚障害者の対応ボタンがありませんでした。ボタンを押してみましたが何を言っているのか聞き取れずその時は電話リレーサービスを利用し、人に来てもらうことができましたが、30分ほど待たされるということがありました。こういった時に文章で表示されるような聴覚障害者でもコミュニケーションが取れる配慮が欲しいなと思いました。

今回のデフリンピックを通じてろう難聴者がこういうところで困るのかと気付いてほしいですね。

アスリートと仕事

大学卒業後、ソフトバンク株式会社に入社し、今年で5年目になります。普段はサービス企画を担当していて、例えば、高齢者や子供を対象にしたサービスの企画を作っています。

仕事と競技の両立は大変で、はじめの1年はいい成績が残せませんでした。2年目は生活にも慣れてきたのでだんだん良くなってきましたが、今もまだまだ十分とは言えず、成長の余地はあると思っています。例えば睡眠時間については、今は6時間ですが、もっと睡眠をとる方がよいと思っています。



朝は4時半に起きてトレーニングをしています。前までは夜にトレーニングをしていましたが、トレーニング中に鹿が3頭道に出てきたことがあり、自転車もすごいスピードで走っているのととても怖かった

のを覚えています。シカは夜行性なので朝ならいないだろうと思い、練習時間を朝早くに変更しました。

東京 2025 デフリンピックに向けて

東京 2025 デフリンピックの代表に内定した時は、今までの努力が報われた、ほっとしたという気持ちになりました。今まではレベルの高い選手たちと戦ってきて、自分のことだけに集中してきました。ですが、これからは、チームとして戦うことになるので、自分だけが良ければいいわけではなく、チームとして協力をして、レベルアップを考えていく必要があります、そういう覚悟も必要だと思っています。

デフ自転車競技の魅力

デフ自転車のロード競技の魅力は、駆け引きにあると思います。

ロード競技の種目の一つのポイントレースでは、周回コースを何周もするのですが、その中の決まった周回の時に1位から順にポイントが与えられ、最終的に何ポイント集めてゴールをしたかを競う競技です。初めからスピードを上げればいいでもなく、戦略的に戦うことがカギを握ります。

また、ロードレースでは、水分補給のタイミングやアタック（速度を上げること）のタイミングが重要になってきます。聴者の競技の場合は相手選手のギアを変える音

で後ろの選手が速度を上げてくることを察知しますが、ろうの場合はきこえないので、急に後ろから抜かれてしまうということになります。なので、頭を振って周りの選手の様子を見て、他の選手の動きを把握します。中には太陽からの影で周りの選手が近づいてくることを確認するという選手もいます。



東京 2025 デフリンピックへの想い

私は短距離でパワーを出すのが得意なので、東京 2025 デフリンピックでは、スプリント種目で金メダルを狙いたいですね。そのためにも身体を絞らないといけないと思っています。最近、オフの日には友人からもらった低温調理器を使ってサラダチキンを作っています。いろいろな味付けを試していて、20種類くらいのレパートリー

があります。たまにまずくなることもありますけどね。(笑)

今回の大会では、ろう者に対する社会の



考え方が変わるきっかけになるといいなと思っています。きこえないというと「できない」という意味になってしまうかもしれませんが、「できない」ではなく「個性」として認識してもらいたいと思います。

一人で歩いているときに道を聞かれることがあります。きこえないというとほとんどの人は「じゃあいいです」とそこで会話が終わってしまいます。そうではなく、私も説明できるので同じ人間として頼ってほしいと思います。声をかけられたら、身振り手振りや表情でコミュニケーションをとることもできるので、ぜひ頼ってもらいたいです。

デフリンピックを見に来る子供たちにも、偏見をなくすことが大切だと伝えたいと思います。きこえなくても同じ一人の人間ですよ。平等というよりは同じ仲間としてとらえてほしいと考えています。

Athlete4	田中 航太
生年月日	1998年10月23日
所属企業 所属団体	ソフトバンク株式会社 一般社団法人日本ろう 自転車競技協会
経歴	
2024年	世界デフ選手権大会 ・スプリント: 8位入賞 ・ポイントレース: 11位 ・ロードレース: 13位

国内レースでは、アマチュアトップカテゴリであるJBCF E1に所属。聴者と同じフィールドで全国各地のレースに参戦。